

第12回「学びの変革」委員会

出席者

校長(委員長)	○	教 頭	出張	総括事務長	○	主幹教諭	○
指導教諭	○	教務主任(総括責任者)	○	進路指導主事(中核教員)	○	実践推進リーダー	○
総務部長	○	1学年主任	○	2学年主任	○	3学年主任	○

1 校長から

・下崎教育長のお話から

- ①学びの変革で若手教員がよく頑張っている。ベテランでも積極的にチャレンジする教員もいる。
- ②校内で議論を進めているか。各学校で取り組み方は違うし、様々あってよい。議論したらアクションを。
- ③メタ認知学習のすすめ。知識・考え方を認知している状態。
T型人間 — (横棒)・・・ジェネラリスト(基礎基本),
 | (縦棒)・・・スペシャリスト(基礎基本の活用)
- ④ブルーナー・・・発見学習 教科の本質＝学問の本質 学者がどのようにして理論を生み出したかを追体験させる。深い理解を求めるにはそのような授業を展開する。
- ⑤6C (Communication(コミュニケーション), Collaboration(コラボレーション), Competency(コンピテンシー), Criticalthinking(クリティカルシンキング), Creative(クリエイティブ), Confidence(コンフィデンス)) がこれからの教育で求められること。

・校長より

本校でも、問題演習において知識を詰め込むような解説型授業となっていないか。家庭でできることは家庭で学習し、学校でしかできないことを授業で学習する。深い学びに至るにはティーチアザー。特に3年生は問題演習の時期ではあるが、生徒にとってわくわくする授業としなければならない。網羅主義は限界にきている認識を持つように。意欲を持たせ自分自身で頑張ろうとすることで学習は成立する。

2 カリキュラム実践

(1) 実践推進リーダーから

1年生の総合的な学習の時間について説明。1年生は『探究基礎』の段階。情報収集の方法やどのような課題があるのかといった探究活動の知識やスキル、手法について学んでいく。あわせて、2月15日の発表会、2年次の研修旅行に向けて今後は展開。

(2) 中核教員から

先日の校内研修(課題発見・解決学習における課題とは何か)についての整理。